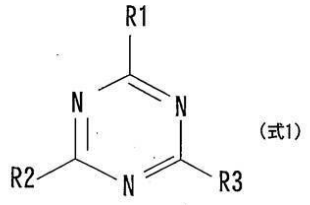
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成27年5月14日(2015.5.14)

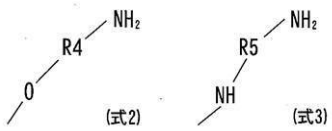
【公開番号】特開2013-209490(P2013-209490A)
【公開日】平成25年10月10日(2013.10.10)
【年通号数】公開・登録公報2013-056
【出願番号】特願2012-79934(P2012-79934)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　18/32　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ　73/10　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　 3/22　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　79/08　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　75/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　18/32　Ｂ
Ｃ０８Ｇ　73/10
Ｃ０８Ｋ　 3/22
Ｃ０８Ｌ　79/08
Ｃ０８Ｌ　75/02

【手続補正書】
【提出日】平成27年3月26日(2015.3.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
トリアジン系トリアミン化合物，またはイソシアヌレート系トリアミン化合物と、ジイソシアネート化合物，または芳香族酸二無水物との反応により得られることを特徴とする多分岐高屈折材料。
【請求項２】
請求項１に記載の多分岐高屈折材料において、前記トリアジン系トリアミン化合物は下記式（１）で表される化合物であることを特徴とする多分岐高屈折材料。

【化１】



【化２】

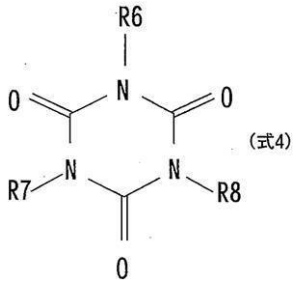


〔ただし、式（１）中、Ｒ１，Ｒ２，Ｒ３は、式（２），または式（３）で表される基であり、式（２），式（３）中、Ｒ４及びＲ５は、２価の有機基を表す。〕

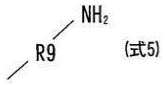
【請求項３】

請求項１に記載の多分岐高屈折材料において、前記イソシアヌレート系トリアミン化合物は下記式（４）で表される化合物であることを特徴とする多分岐高屈折材料。

【化３】



【化４】



〔ただし、式（４）中、Ｒ６～Ｒ８は、式（５）で表される基であり、式（５）中、Ｒ９は、２価の有機基を表す。〕

【請求項４】

請求項２または請求項３に何れか記載の多分岐高屈折材料において、前記ジイソシアネート化合物は芳香族ジイソシアネート、又は脂肪族のジイソシアネート並びに、脂環構造のジイソシアネート類であることを特徴とする多分岐高屈折率材料。

【請求項５】

請求項２または請求項３に何れか記載の多分岐高屈折材料において、前記芳香族酸二無水物は、(4,4'-(ヘキサフルオライソプロピリデン)ジフタル酸無水物，無水ピロメリット酸，オキシジフタル酸無水物，3,3',4,4'－ベンゾフェノンテトラカルボン酸二無水物，3,3',4,4'－ジフェニルテトラカルボン酸二無水物，2,2'－ビス[（ジカルボキシフェノキシ）フェニル]プロパン無水物、から選ばれる化合物であることを特徴とする多分岐高屈折率材料。

【請求項６】

請求項１乃至請求項５の何れかに記載の多分岐高屈折率材料と無機酸化物微粒子とが複合化されてなることを特徴とする有機－無機複合物の多分岐高屈折材料。

【請求項７】

請求項１乃至請求項５の何れかに記載の多分岐高屈折率材料と無機酸化物微粒子とが共有結合により一体化されてなることを特徴とする有機－無機複合物の多分岐高屈折材料。
【請求項８】
請求項６または請求項７の何れかに記載の多分岐高屈折材料において、前記無機酸化物微粒子は、表面に水酸基を有するジルコニア，チタニアの何れかであることを特徴とする有機－無機複合物の多分岐高屈折材料。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
本発明の多分岐高屈折率材料によれば、有機材料であって好適な屈折率を得ることができる。また、このような高い屈折率が得られる多分岐高屈折率材料と無機酸化物微粒子を混合させる、或いは化学的に結合させることにより、無機酸化物微粒子の添加量を抑えながら好適な屈折率を得ることができる。